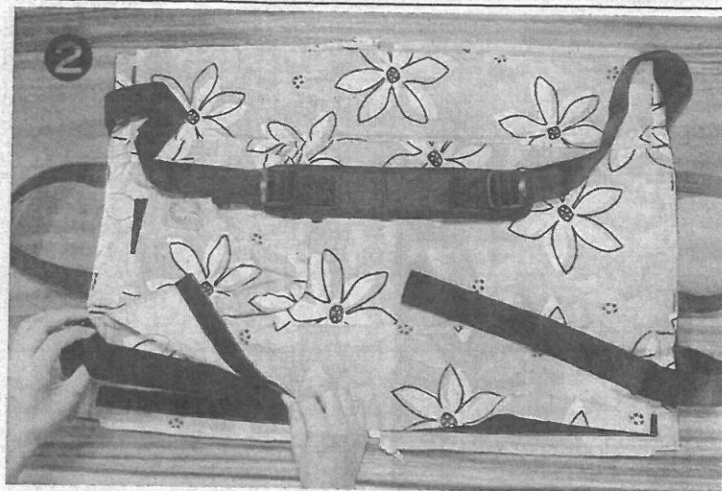


抱っこひもとカバンを一体化



①抱っこカバンの両脇のファスナーを開く
②収納されたベルトを出す
③ベルトを腰に巻く
④残るベルトを肩からかけ、長さを調整して装着完了

「抱っこカバン」で楽々育児

心身ともに負担が大きいシングルマザーの力になりたい。そんな思いで抱っこひもとカバンを一体化した「抱っこカバン」を開発した女性がいる。さいたま市緑区の大門みづきさん(40)だ。自身も交通事故で夫を亡くしたシングルマザー。夫の協力が得られない育児で感じた不便さを解消しようと一年半かけて商品化した。「孤独になりがちなシングルマザーの支えになれば」と話している。

(西川正志)



抱っこひもとカバンを一体化した抱っこカバンを手にする大門みづきさん＝さいたま市で

あすから一般販売

大門さんの抱っこカバン「gyuttone!」(ぎゅっとね!)はバッグ両脇のファスナーを開き、収納されたベルトを装着することで抱っこひもになる。装着は簡単で、一般的な抱っこひもと比べても、煩わしさはない。ファスナーを開いた状態であれば、おむつ替えシートにも代用できる。

すでに始めている支援者向け販売に続き、十日から一般への販売を始める。大門さんは二〇一四年五月、夫の秀行さん(享年40)を事故で失った。長男奏一朗君はまだ生後十カ月。「奈落の底に突き落とされた」。何も手につけず、家に引きこもった。立ち直れないまま迎えた一周忌。ふさぎ込む自分とは対照的にすくすくと成長した奏一朗君の姿にはっとした。「このままじゃダメだ」。少しずつ外出するようになった。

その年の夏、奏一朗君と動物園へ行った。遊び疲れて寝た奏一朗君を抱き、大量の荷物が入ったカバンを肩にかけて歩いた。腕はしびれ、カバンが肩に食い込む。大粒の汗が流れた。

周囲には楽しそうな親子連れがいた。父親が子の手を引き、母親が笑う。「私はずっと子どもも荷物も一人で持たないといけない」。夫を失った現実と今後の不安感。あふれそ

さいたまの大門さん「シングルマザーの支えに」

なる涙をこらえる一方、「つらい思いをしているシングルマザーは私一人じゃない。もっと便利な抱っこひもがあればいいな」。すぐにアイデアを練り始めた。

重くてかさばる、外出先で使うかどうかわからないが持っていないと不安。抱っこひもの不満を解消しようと考えた末、バッグとの一体化に行き着いた。

安全性やデザインなどを追求、試作を繰り返した。小規模事業者などの経営相談を受ける国が運営主体の「埼玉県よろず支援拠点」の助言も受け、事業化を模索。今年三月に商品が完成し、二カ月後には自身の会社「kanadel(カナデル)」を設立した。

「シングルマザーが孤独を感じた時、『この抱っこカバンは同じシングルマザーが作ったんだ』って思ってもらえれば、少しは孤独を和らげられるはず」と大門さん。「これから心の支えになるような商品を開発していきたい」と話している。

抱っこカバンは一個一万九千八百円。問い合わせはカナデルEメール(kanadelsince2015@gmail.com)へ。

子育て支援「ネウボラ」紹介 フィンランド大使 神川と美里を訪問



フィンランドのユッカ・シウコサリ駐日大使が八日、県北部の神川町と美里町を訪問した。神川町保健センターでは子育て中の親子二組と、妊娠から就学前までを包括的に支える同国の社会制度「ネウボラ」について話した。

ネウボラは子育て支援の場、小児科、療育、育児、まな相談、大使は親にミル

商印 出版事業部
ビジネスフォーム事業部
シールラベル事業部
03-6914-5673
03-3576-5700
03-5907-2320

県庁

さいたま市
熊谷市
秩父市

きょうの

降水確率
朝0%!
気温
最高30度
北の風後

さいたま市
千330-1
さいたま市

電話 04
FAX 04
mail:sai
通信局
熊谷市
熊谷市
熊谷市
熊谷市
熊谷市

広告の